

## I 令和3年度 現職教育推進計画・青少年赤十字研究推進計画

### 1 研究主題

自分の考えをもち、学び合いながら、自ら行動できる子どもの育成  
～振り返りから新たな気づきを促し、実行につなげる指導のあり方～  
第3年次

※青少年赤十字研究推進 「気づき、考え、実行する」力の育成

### 2 主題設定の理由

#### (1) 児童の実態より

本校の児童は、素直で明るく、与えられた課題にまじめに取り組むことができる児童が多い。また、学習においては基礎的・基本的な学習内容をしっかり身に付けている児童も多い。しかし、「受け身的な姿勢や指示待ちの姿勢が見られる」「表現力・活用力が十分に育っていない」といった課題がある。

そこで、自ら行動できる力、自分の思いや考えを素直に表現する力を育成していくために、児童同士の学び合いを重視していく。児童が互いに関わり学び合うことで、自らの考えを具体的にしたり深めたりして、よりよい考えを築き上げていく。そして、児童同士が互いを高め合う学習を積み上げることで、自分の考えたことを積極的に行動へと移せるような児童を育成していけると考える。

#### (2) 青少年赤十字研究推進として

児童が自分の考えをもち、学び合いながら、自ら行動できるようにするためには、青少年赤十字の基本理念等を理解し、様々な教育活動の中で青少年赤十字の態度目標「気づき、考え、実行する」力の育成を目指していく。

そこで、授業では学習過程で「気づき、考え、実行する」というプロセスを重視して指導内容・方法を工夫することで、今年度の重点目標「自ら気づき、考え、実行しよう！」を達成できると考える。また、青少年赤十字の実践目標「健康・安全」「奉仕」「国際理解・親善」を踏まえ、教科等の関連やカリキュラムマネジメントを考えて教育課程を編成することで、様々な教育活動が充実していくと考える。

本校は、令和元年度から令和3年度まで3年間、青少年赤十字研究指定を受けている。今年度は、3年次の研究に当たる。

### 3 研究主題のとらえ方

#### (1) 『自分の考え』とは・・・「**気づき、考え**」

学習課題や問題に対してその解決方法や解決するために必要な事物について、習ったことや経験したことを振り返り、さらに生かしていけるよう、自分なりに思考を働かせること。

自分の身の回りの生活にはどのような課題があるのかを意識し、よりよい生活をするためにはどうしたらよいのか、自分の役割などについて思考を働かせること。

#### (2) 『学び合い』とは・・・「**考え**」

ペアやグループまたは全体で、お互いの考えを伝え、確かめ合うことで、自分の考えに友達の考えのよさを取り入れたり、自分の考えを修正したりすること。そこからさらに、自分の思考を広げたり、新たな解決方法を見い出したりすること。

#### (3) 『自ら行動できる』とは・・・「**実行する**」

課題解決のための方法や手段を、自ら選択したり決定したりして、思考・判断を働かせて具体的に行動すること。

## 4 研究仮説

教育活動全体を通して、子ども達の気づきを促し、考えにつなげる指導を工夫し、以下のような手立てを講じていけば、気づきの力が高まり、自分の考えを生かして自ら行動できる子どもが育成できるであろう。

- |                           |      |
|---------------------------|------|
| ① 気づきを促すための指導の工夫          | 第1年次 |
| ② 自分の考えをもたせるための場の設定や指導の工夫 | 第2年次 |
| ③ 考えを交流させる学び合う場の設定や指導の工夫  | 〃    |
| ④ 自ら行動できる実践の場や時間の確保       | 第3年次 |
| ⑤ 実践したことや既習内容を振り返る場の設定と工夫 | 〃    |

## 5 研究の内容・方法

- (1) 特別活動・生活科・総合的な学習の時間・道徳科を中心に、研究主題にせまるための手立てを明確にした授業実践を行う。
- (2) 計画的に研究を推進して、実践を積み上げて教育活動の充実をめざす。

### 第3年次（令和3年度）

- 実践したことを振り返る場の設定と工夫
- 振り返りから、新たな気づきや考えを導く指導の工夫

## 6 令和3年度の研究推進

副主題「振り返りから新たな気づきを促し、実行につなげる指導のあり方」をもとに、次の研究に取り組む。

### (1) 実践したことや既習内容を振り返る場の設定と工夫

- 振り返りから課題を引き出す、振り返りながら学び合うための指導の工夫
- 振り返りの時間の確保（自己評価・他己評価）（実行へつながる振り返り）

### (2) 振り返りから、新たな気づきや考えを導く指導の工夫

- 授業及び教育活動における「しかけ」と「待ちの姿勢」
- 児童の自主的な活動を生み出す指導計画と実践後の評価・改善
- 「先見」を取り入れた授業実践・単元構成

### (3) 学び合うための環境づくり

- JRCコーナーの設置（ありがとうの木の実践）
- 「先見ボード」・掲示板の効果的な活用の工夫
- 児童会集会活動の計画運営の工夫
- 感染症のよとの体験活動・交流活動の充実
- ボランティア活動・縦割り班活動の計画運営の工夫

### (4) その他

- 生活・総合的な学習の時間・道徳・学級活動の反省と内容検討（毎学期ごと）

## 7 令和3年度の研究授業推進

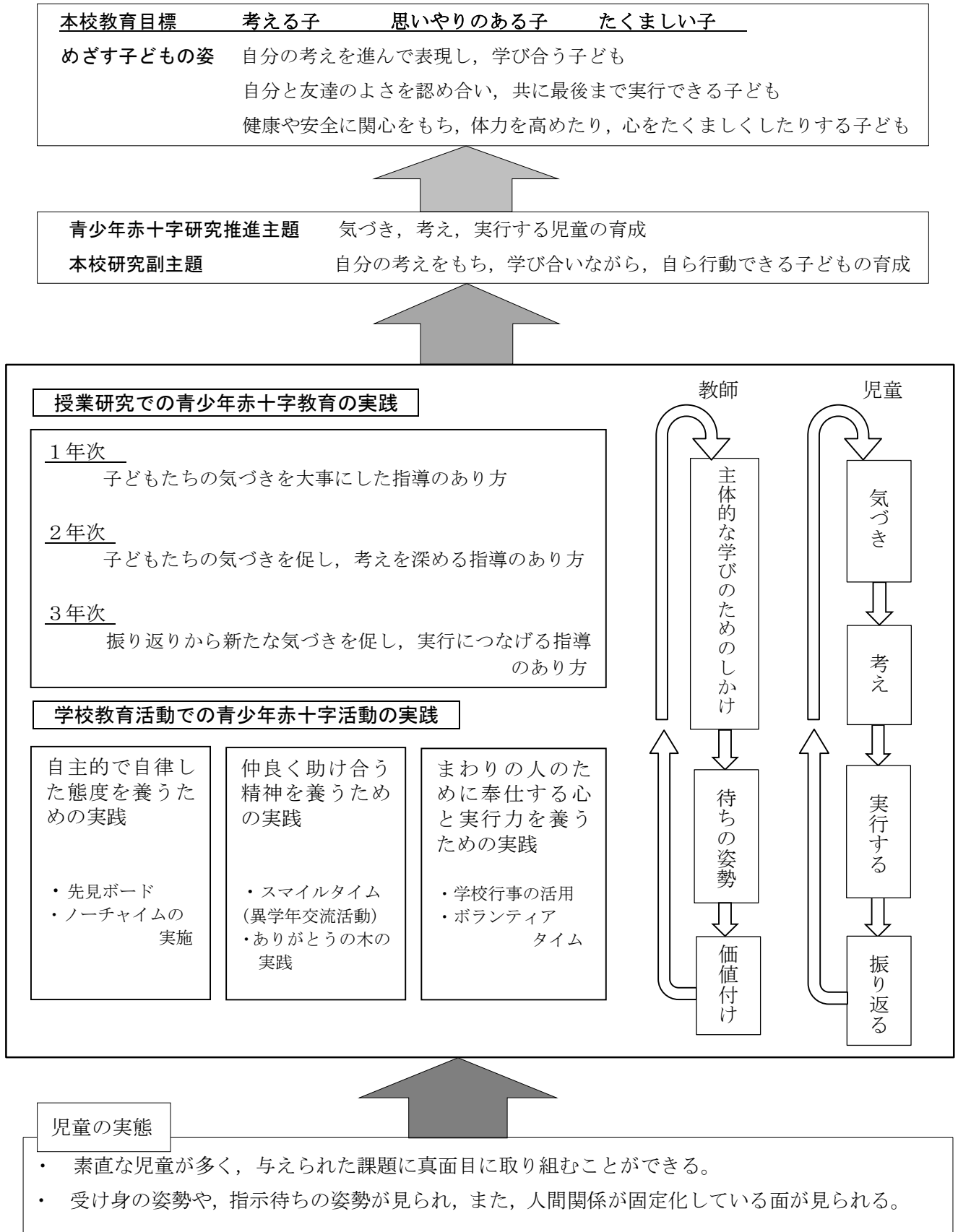
6月 要請訪問による研究授業  
(2学年2組道徳科・3学年1組道徳科・6学年2組道徳科)

10月1日 令和3年度福島県指導者研修会・学校公開  
(2学年1組道徳科・3学年1組道徳科・6学年2組学級活動)

※ 全職員で参観する研究授業は、各ブロック(低中高)2回とし、事前・事後研も全職員で行った。全員参観の研究授業を行わないクラスも、ブロック研究授業(一人一授業)は実施した。

## II 研究の実際

### 1 研究構想図



## 2 授業研究での青少年赤十字活動の実際

### (1) 2学年1組 道徳科 ともだちをおもうころ B-(9)友情,信頼「モムンとヘーテ」

モムンの気持ちの変化について話し合うことを通して、友達と気持ちのすれ違いがあっても、相手のことを考えたり、謝ったり許したりすることが本当の友達になるために大切なことだと気づき、実行していこうとする心情を育てる授業

- 【気づき】の手立て①について 導入で事前アンケートを提示することにより、本時の課題へ焦点化を図ることができた。また、終末でも事前アンケートを再度提示したことにより、授業の最初と後での自分の変容に気づき、考えをまとめやすくすることにつながった。
- 【考え】の手立て②について 黒板に直線を引き、二人の登場人物を表す掲示物を近づけたり遠ざけたりして心の距離を表したり、色を分けて板書したりしたことで、見やすく分かりやすい板書となり、児童の理解や考えを深めることに効果的だった。
- 【実行する】の手立て③について ICT機器を使い、挿絵や具体物を示しながら教材文を提示することで、登場人物の関係理解をしやすくし、教材を理解することにつながった。また、教材を理解するための時間を減らすことができたため、考える時間を十分に確保することができた。

#### 授業後の変容

友達に意地悪をすることは絶対にいけないことだと理解し、互いに声を掛け合う姿が見られるようになってきた。また、嫌だと思ったことを黙っているのではなく、相手にきちんと伝える姿も多く見られるようになってきた。

### (2) 3学年1組 道徳科 元気のもと D-(18)生命の尊さ「いただきます」

食に関わる人たちの存在や、自分の生命と他の生命とのつながりに気づき、「いただきます」の意味について考え、生命を大切に生きていこうとする実践意欲を高める授業

- 【気づき】の手立て①について 給食時の「いただきます」の様子を動画で確認したことで、自分たちの現状を視覚的に分かりやすく把握することができ、課題意識をもたせることができた。
- 【考え】の手立て②について 挿絵や食材カードを用いた構造的な板書によって、人とのつながりや命のつながりが可視化され、児童の「いただきます」に対する見方を広げ、深めることができた。
- 【実行する】の手立て③について 今の食べる時の気持ちや行動を見直し、「残さないで食べる」「感謝の気持ちを込めて『いただきます』を言って食べる」というように、考えを深めることができた児童が多かった。また「気持ちを込めて給食を配る」というように、係活動や当番活動への広がりも見られた。

#### 授業後の変容

授業終了後、給食の時間になると、手をしっかりと合わせ、心を落ち着けてから「いただきます」とお辞儀をして言う児童が増えた。野菜嫌いであった児童が、一口でも挑戦してみようとする姿が多く見られ、なかなか完食ができなかった児童も完食をする回数が増えてきた。

### (3) 6学年2組 学級活動「下学年を喜ばせるためにできることを考えよう」(1)ーウ

6年生として、下学年を喜ばせるために何ができるかについて考えながら、自分たちで主体的に話し合い、決定・実行しようとする意欲を高める授業

- 【気づき】の手立て①について 議題である“下学年を喜ばせるために”という価値基準を明確にしたことで、話し合いの内容がぶれることなく展開できた。
- 【考え】の手立て②について これまでの話し合い活動では、一部の児童の意見で会が進行する様子が多く見られたため、事前指導でノートに自己の意見を記入させた。その結果、普段は発表が苦手の児童も、意見を発表することができていた。
- 【実行する】の手立て③について 小グループでの話し合いの場を、児童の様子や児童からの提案によって設定したことで、全員が主体的に話し合いに参加することができた。

#### 授業後の変容

決まったことをもとに行ったイベントでは、全員が自分の役割を自覚し、下学年を喜ばせるために全力で取り組むことができていた。イベント後に振り返りを行い、運営をした感想を交流した。

### 3 学校教育活動での青少年赤十字活動の実践

#### (1) 自主的で自律した態度を養うための実践

##### ① 先見ボード

全校用「先見ボード」：職員室前に設置

- ・ 学年の学習予定，児童への呼びかけ，学校行事や全校活動の予定を掲示

学級用「先見ボード」：学級の黒板脇にホワイトボード設置

- ・ 時間割やその日の学習内容予定（朝の会で「先見の時間」（30秒～1分）を確保）

- 児童が，自ら予定を見て行動できるようになった。担任や全校行事等の放送での移動指示が必要なくなった。
- 朝の会で，1日の予定を児童と教師で短時間で共通理解が図れるようになった。1日の予定で不明な点は，質問を受けて細やかに共通理解が図られている。次の授業の内容を確認する姿が見られる。

##### ② ノーチャイムの実施

1年次から，段階的にチャイムを減らし，3年次完全にノーチャイム実施



#### (2) 仲良く助け合う精神を養うための実践

##### ① スマイルタイム(縦割り班による異学年交流)

スマイルタイム（縦割り班活動から名称変更）とボランティアタイムをJRCタイムとして教育課程に位置付けて年間を通して実施

- 令和2年度のスマイル班のメンバーのまま，新1年生を加えて活動をしている。同じメンバーで活動することにより，仲良く活動することができ，人間関係が広がる場となっている。
- 業間や昼休みに実施していた児童会主体の活動や花いっぱい運動等の教育活動もこの時間に組み込み，活動の種別や時間帯が整理されるとともに，時間的な余裕が生まれた。

##### ② 「ありがとう」の木の実践

- ・ 各学級にありがとうの木を設置し，自分がしてもらってうれしかったことを記入して掲示。毎月15日の昼の放送で，各学級から1つ「ありがとう」の事例を紹介した。
- 高学年は，発達段階に合わせ「頑張っていた人」「自分がしたことで感謝されたこと」など，記入の視点を追加して実践中である。放送で，ありがとうの木の事例が紹介されると，各学級で拍手が起きる様子が見られ，善い行いをしようという意欲が高まっている。

#### (3) まわりの人のために奉仕する心と実行力を養うための実践

##### ① ボランティア活動

- ・ 木曜日のJRCタイムに実施（学級・学年・縦割り班等で行う）
- 自分達にできることを考えて，進んでボランティア活動ができた。活動の幅をさらに広げられるよう，支援を工夫していく。



##### ② 学校行事の活用

###### 【1年生を迎える会】

- ・ 6年生が企画・運営し，1～5年生の縦割り班で学校オリエンテーションを楽しんだ。

###### 【運動会(スポーツフェスティバル)】

- ・ 低・中・高ブロックで行う団体種目を，他のブロックの児童が考えた。（例：4年生が，1・2年生の団体種目「全員リレー」を考えた。）
- 1年生に歓迎の気持ちが伝わるよう，また，全校生で楽しめる会になるよう，6年生が企画を考えることができた。
- 6年生以外の学年も，会場の飾り付けや1年生へのプレゼント作りなどを分担して行い，1年生が喜ぶように考えて活動することができた。
- 全員が楽しく競技できるよう，相手意識をもって考えることができた。また，新型コロナウイルス感染症予防についても考慮しながら，安全に楽しくできる競技を考えることができていた。団体競技を考える活動を通して，行事としての一体感が高まった。



### Ⅲ 成果と課題

#### 1 成果

##### ○ 主体的な学びを引き出す指導姿勢の変化

児童主体の学びを実現するために、授業の中で、課題の提示や発問等を工夫してしかけをし、待ちの姿勢で支援する指導を重点に研究を積み重ねることができた。研究により、主体的な学びのための授業改善が図られた。児童につけさせたい力を明確にして指導した後、振り返りを通して一人一人の成長を見取る意識が高まってきた。授業研究の指導姿勢は、児童会活動・学校行事等、学校教育全体に波及している。教師が青少年赤十字教育の理念について理解を深めて指導に当たるようになってきた。

##### ○ 子どもたちの気づき、考え、実行する力の向上

「気づき、考え、実行する」態度目標が児童に浸透し、自分自身でできることはないか考えたり、失敗から気づきを得て実行したりする姿が見られるようになってきた。現職教育アンケートでは、「自分で考えることを大切にしている」「困っている人がいたら助けている」の項目での伸びが大きく、特に主体性や思いやりの心が育ってきていると考えられる。

##### ○ 青少年赤十字の活動を取り入れた教育課程

本校副主題である、「自分の考えをもち、学び合いながら、自ら行動できる子どもの育成」のために、研究1年次はこれまでの学校教育の中に含まれている青少年赤十字教育活動に目を向け、関連を意識して指導・支援に当たることができた。2年次にボランティア活動の場と時間を取り入れて実践し、3年次に「JRCタイム」として、ボランティア活動と児童会の活動や季節の行事も組み込んだ教育課程を編成し、実践している。教師、児童の共通理解の元、段階を踏んで無理なく青少年赤十字活動を取り入れることができた。教育課程を編成し直したことで、日課表に余裕ができ、児童の日々の学校生活にもゆとりが生まれた。

#### 2 課題

##### ● 青少年赤十字の活動の評価・価値付け

青少年赤十字の態度目標「気づき、考え、実行する」の成果は、可視化が難しい。教師が児童の成長を見逃さずに価値付け、児童が自己評価したり他者評価することを通して、児童が自分の成長に気づけるようにすることが大切である。成長によって自信をつけ、次のステップへ進む原動力となるよう、支援や評価の方法をさらに研究していく必要がある。

学習指導要領が示す学びの改革「主体的で、対話的な深い学び」の実現のためにも、青少年赤十字教育の態度目標「気づき・考え・実行する」を教師が意識し、児童の活動を見取って価値付けながら、心豊かな人間性と思いやりの心を育てていきたい。